

生活科学系コンソーシアム第 15 回会議 議事録

日時： 平成 27 年 3 月 26 日（木） 11:00～12:40

場所： 横浜国立大学 大学会館 3F ポルティ

出席者：（敬称略）

コンソーシアム構成学会より連絡担当者計 12 名

国際服飾学会	山村明子
日本衣服学会	阿部栄子
公益社団法人日本栄養・食糧学会	鈴木恵美子
日本家庭科教育学会	大竹美登利
日本消費者教育学会	西村隆男
一般社団法人日本調理科学会	笠倉和子
一般社団法人日本繊維製品消費科学会	小柴明子
生活経済学会	藤野次雄
一般社団法人日本保育学会	守随香
特定非営利活動法人日本栄養改善学会	木戸康博
公益社団法人日本食品科学工学会	飯島陽子
日本学術会議 健康・生活科学委員会、家政学分科会委員	
小川宣子、塚原典子、香西みどり、薩本弥生、渋川祥子、多屋淑子、 工藤由貴子、藤原葉子、倉持清美、永富良一、片山倫子	

欠席者： 日本食生活学会 一般社団法人日本家政学会 公益社団法人日本食品衛生学会
服飾文化学会

日本学術会議 健康・生活科学委員会、家政学分科会委員
沖田富美子、都築和代、本田由紀

資料

1. 生活科学系コンソーシアム第 14 回会議議事録案
2. 会員名簿
3. 生活科学系コンソーシアム規則
4. 平成 26 年度活動報告案
5. 平成 26 年度年会費
6. 平成 27 年度活動計画案

議事内容（敬称略）

1. 生活科学系コンソーシアム第 14 回議事録（案）の承認（資料 1）（香西）

第 14 回会議の議事録案が了承された。

2. 生活科学系コンソーシアム名簿及び規則の確認、自己紹介 (資料 2) (小川)

3. 連絡 (小川)

第 8 回生活科学系コンソーシアム総会の日程変更について 5 月 27 日の予定から 5 月 20 日 (水) 17:00~18:00 になったことの説明があった。

4. 平成 26 年度活動報告案について (資料 4)

① 第 3 回シンポジウムが H26.12.25 に大妻女子大で行われ、参加者約 50 名で交流会も活発に行われた。(塚原、阿部)

② 第 6 回生活科学系博士課程論文発表会が H27.3.26 に横浜国大で行われる。教室変更の案内。(工藤)

5. 平成 26 年度会費について (資料 5) (多屋)

平成 26 年度の年会費は 15 構成学会で一口 5000 円として 61 口だったが、日本保育学会で一口増えたため 62 口になった。(多屋)

6. 平成 27 年度活動計画案について (資料 6) (小川)

① 会議日程

第 16 回会議 9 月未定 シンポジウムの確認

第 17 回会議 12 月未定 来年度に向けた素案

第 18 回会議 3 月未定 総会に向けた素案

第 8 回総会 平成 27 年 5 月 20 日 (水)

会議計画について了承された。

② シンポジウム

シンポジウムの会場校としてお茶の水女子大学で実施。

③ 博士課程論文発表会について

○博士課程論文発表会の実施に関する審議を行った。

背景：これまでシンポジウムのテーマについては家庭科教育の充実に必要という観点から構成学会に一通りシンポジストをやってもらった。また、博士課程論文発表会については参加者数が少ないので意味がない、生活科学系大学で博士を持っているところが少ないので意味がある、の両意見がある。

意見交換

- ・将来の研究者が発表会、交流会をもつことは件数が 8 件程度でも意味がある。
- ・参加している学生には好評である。研究の悩みなど情報交換ができる。
- ・発表者を探すのに苦労する。インセンティブを設けてはどうか？
- ・ドクターをとって本発表会に参会していない学生にきいてはどうか？
- ・全校の大学に呼びかけているが、再依頼で 8 件となった。実施には意義がある。
- ・昨年は京都から参加があった。地方から来る人への交通費を一部負担してはどうか？一部負担額を決めて来年度の予算に組み込むことを考える (会計多屋)

- ・生活科学系でドクターがあまりないことがきっかけで博士論文発表会が始まっており、コンソーシアムができてから課程博士にこだわってやってきている。
- ・発表したことが履歴書にかけるとよい。コンソーシアムの学会賞？設定案

○結論

今後も生活科学系博士課程論文発表会開催を継続していくことで了承された。

今回の会場は家政学分科会としては東京学芸大学を提案。倉持先生内諾。

平成 27 年度博士課程論文発表会の運営を生活経済学会と日本保育学会に頼み、運営委員会を立ち上げる案を総会時に出す。(小川)

7. 家政学分科会からの報告 (小川)

- (1) 分科会では活動について話し合い、家政学及び家庭科教育に関する 3 つの提案 (現行の家庭科を扱う教育内容に対する提案、現行の家庭科教育養成制度に対する提案、現行の家庭科教員免許更新法運用に対する提案) をするために教育内容や教員養成に関して検討するメンバーが決まったので進めていく。

8. 平成 27 年度生活科学系コンソーシアム開催日時

平成 27 年 5 月 20 日 (水) 17:00~18:00 日本学術会議

① 次年度事業計画案の検討依頼

検討中

② 構成学会平成 27 年度行事予定表一覧提出依頼 (阿部)

HP にアップするので 4 月に依頼。7 学会の予定表がまだ出ていない。

③ 平成 27 年度年会費の確認依頼 (薩本)

口数確定後、5 月末日までに平成 27 年度の年会費変更連絡と請求を期日とともに郵送をする。

その他 シンポジウムの継続と科研費細目についての意見交換

- ・他学会と協力してやっていく。
- ・企業が多いので家庭科教育としてはあまりない。
- ・家庭科教育を 2 回取り上げてもらってありがたい。折にふれて取り上げてほしい。
- ・小中高での家庭科教育は国によって異なり、日本は家庭科があって持続している。
- ・科研費細目を各学会で出すか、コンソーシアムでまとめるかを検討。
- ・生活に視点をおいていない人もいるので、生活そのものの捉え方をテーマとするとシンポジウムに参加しやすい。シンポジウムに参加してその点を実感した。
- ・広い学問分野が集まっているので、体系化や、それを説得できる外への出し方が大事。
- ・次年度のシンポジウムは家庭科教育をもっと押してもよい。衣食住、モノに対するもので、生活する人を中心としたテーマでやると参加しやすい。
- ・人間の生活の質、生活向上の視点、国際協力的なことができるのではないかな？

- ・分科会の3つの提案はよい。家庭科教育は衣食住が統合される分野で責任がある。
- ・管理栄養士教育の提案。ガイドラインに縛られることに問題がある。
- ・年間に家庭科教員がどれだけ出ているか、出口や入口を考えて中身を考える。

次回は 平成 27 年 5 月 20 日（水） 日本学術会議 17：00～